

マークジェイコブス青山店

設計:ステファン・ジャクリッチ・アーキテクト

異なった素材の積層による ファサードデザイン

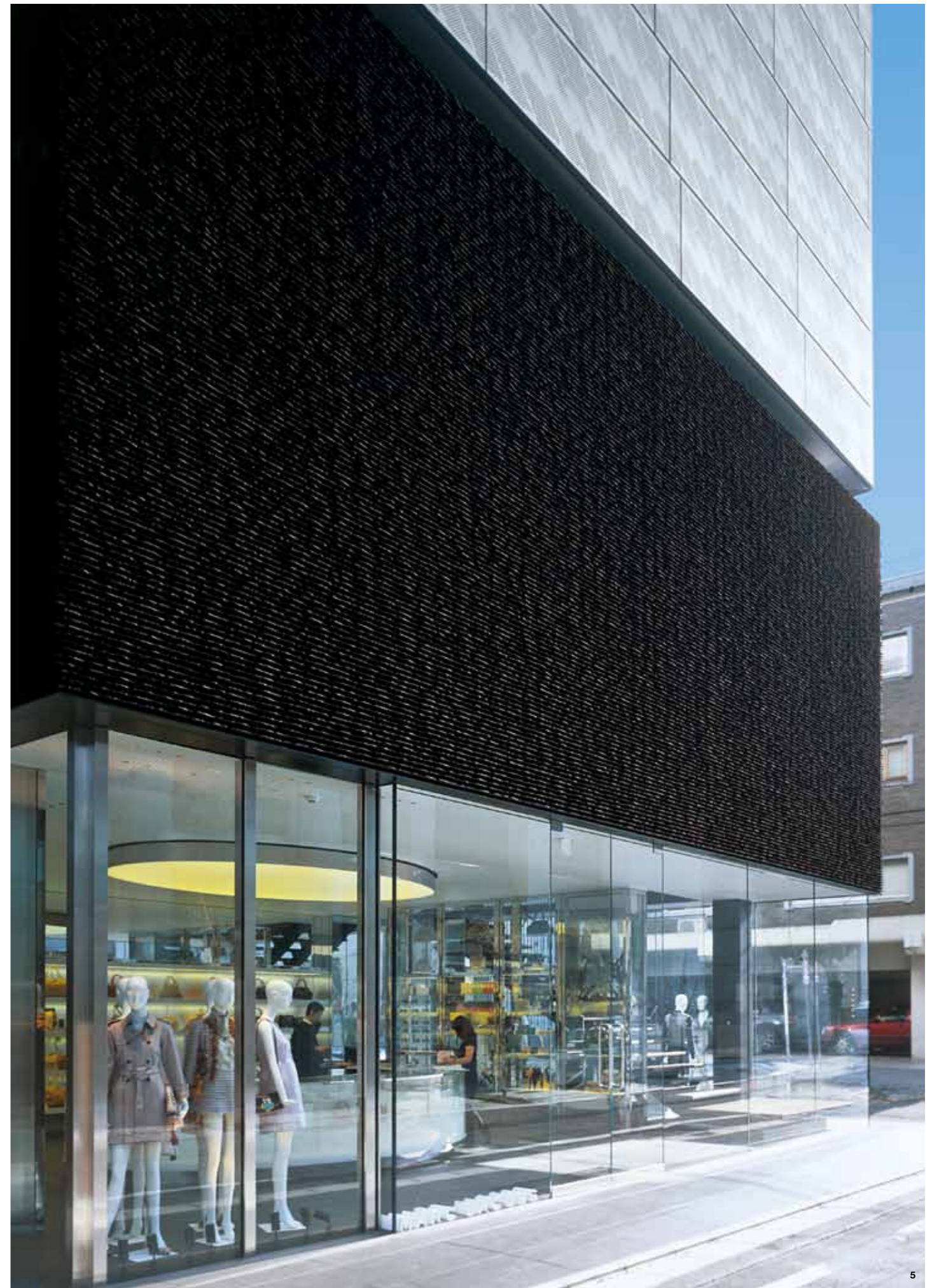
—
ステファン・ジャクリッチ | Stephan Jaklitsch
—

建物のファサードは、建物最上部の工作物を含め、それぞれの階で異なる材料の変化によって帯状のテクスチャの連続として扱った。アクセサリ売り場である1階は、通り側に面したファサード全面をガラスにすることで、内部空間が外部空間と連続している印象を与える。プレタポルテを取り扱う2階部分の外壁は、我々からすると刀のようなイメージのタイルピースをINAX(現LIXIL)と共同開発し、覆った。さらに建物最上部の工作物部分は、アルミのバンチングメタルを前面に、またLED照明で照らされたFFシートを背面に設置することで奥行きを生み出し、巨大な灯台、あるいは標識のような表現を試みた。

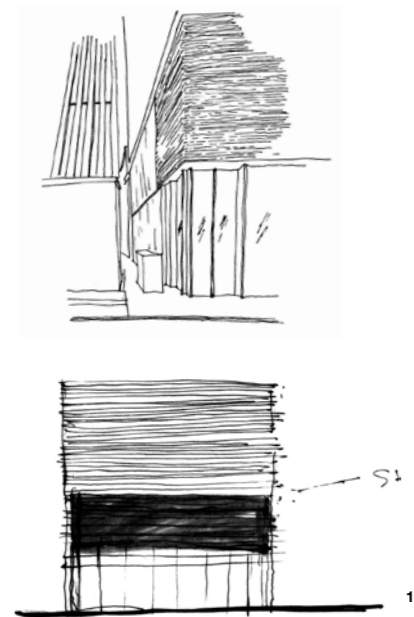
—
2階の特注外壁タイルの部分は、長年風雨にさらされ堆積した地表をイメージしてファサードをデザインした。ここでの挑戦は、我々の建物の外装にマッチするスケールと色味、なおかつ地震にも耐え得る安全な取付方法を開発することだった。たまたまINAXの特殊面状タイルが当計画のスターティングポイントとなり、タイルのサイズを大幅にスケールアップした。そして色味を再検討することを重点に



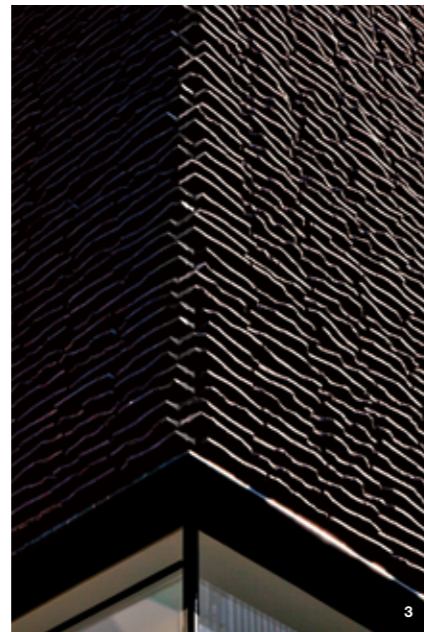
2



5



1



3



4

置き、我々の要望に合った品質の外装タイルを制作する方法を研究していただいた。完全な特注品を標準化された製造過程に落とし込み、より具体化する方法を検証した結果、型に入った焼成前の段階で、人為的にタイルの先端にギザギザのラインを入れ、それぞれ独特の“生”のエッジをつくり出すことに成功した。また当初のタイルの取付は湿式の接着方式だったが、当建物のタイルの重量はサイズと共に劇的に増加したため、金物を用いた乾式の取付方法を新たに開発し、採用した。INAXと協働できたことは非常に貴重な経験であった。また、INAXは最後まで忍耐強く我々の要望を聞き入れ、特注品の製造と工法の改良に尽力してくれた。最終的に出来上がった特殊面状タイルは、まさに我々が思い描いていたものであり、また、今回のデザインでは必要不可欠な要素でもあった。

[訳: 平井俊文]

ステファン・ジャクリッチ——建築家、ステファン・ジャクリッチ・アーキテクツ代表 / 1992年、プリンストン大学MArch修了。1998年、ステファン・ジャクリッチ・アーキテクツ設立。
主な作品: マークジェイコブス サンフランシスコ店 [1999]、スウェンソフロア(ニューヨーク) [2005]、マークジェイコブス ナリ店 [2006]、ダフィーハウス(マサチューセッツ) [2007]、モスコット14st店(ニューヨーク) [2008] など。



- 1——デザイン過程でのイメージスケッチ
- 2——南西面全景
- 3,6——タイルディテール
- 4——西面全景
- 5——北西面外観

テクニカルレポート 人の指で挟み込むイメージの 支持金具を開発

本橋正彦 | Masahiko Motohashi

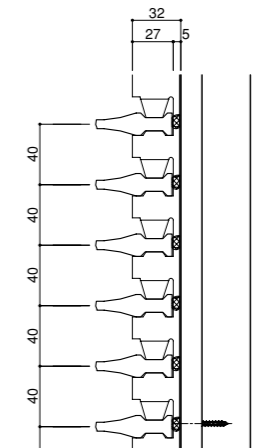
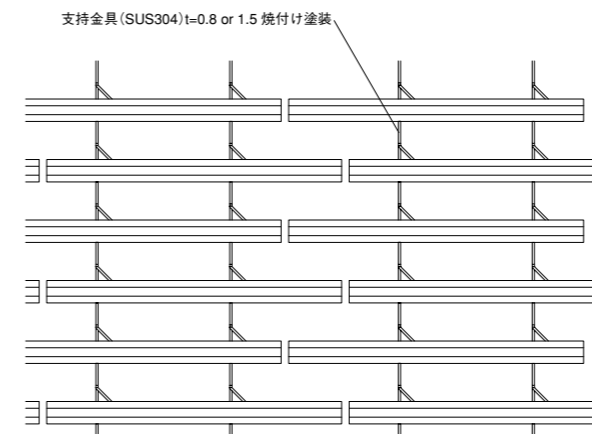
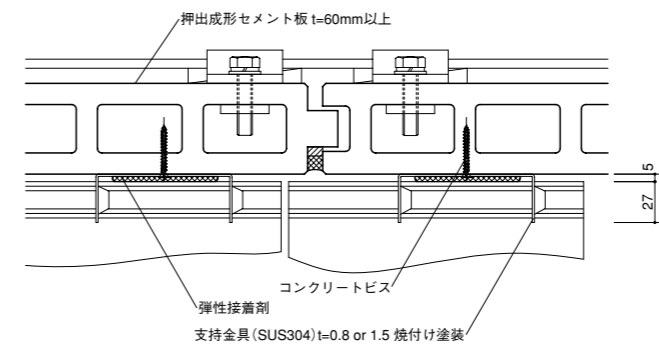
タイルは、通常、裏面にモルタル、あるいは弾性接着剤を塗布し張り付けます。しかし、「マークジェイコブス青山店」においては、タイルの小端面を仕上げとして見せ、なおかつ下地から70-100mmはね出すというユニークな外装面を設計者からリクエストされました。しかし、INAXでは現時点において製作可能な最大形状は60mmとしているため、壁面からの出幅を60mm持ち出すことを前提とし、実現に向け種々検討しました。まず、タイルを持ち上げる、支える、つかむなど、人の指で挟み込むイメージの金物で取り付ける検討に入りました。絶対にタイルを落とさないこと、見た目がシャープであること、下地の金物が目立たず、できれば見えないこと…など

が条件でした。初期はアルミパネルでユニット化することも検討しましたが、コスト面と仕上がりに難点があり断念した経緯があります。支持金具については、保持力が設計風圧力(負圧)1400N/m²に耐えること。地震時の鉛直慣性力(1.5G)によって生じる支持金具への曲げせん断強度が十分あること。接着剤が熱や雨水で劣化しないこと。同時に、タイル挿入方向と同方向への保持力は初期発生強度で6kgf以上、逆方向へは30kgf以上あることを試験によって確認した後、乾式施工によるタイル工事に踏み切りました。当初は、タイルのガタツキ防止の目的から、タイルの裏面に弾性接着剤を塗布することを検討しましたが、充填しにくいと同時に接着剤がはみ出して正面から見えてしまう恐れがあるなど、作業性の点で問題がありました。しかし、金具に切り込みを入れ、それを面外に跳ね出すことによってタイルを面外方向に押さえ込み、ガタツキの問題をクリアしました。さらに建物のコーナーで爪の曲がり逆方向

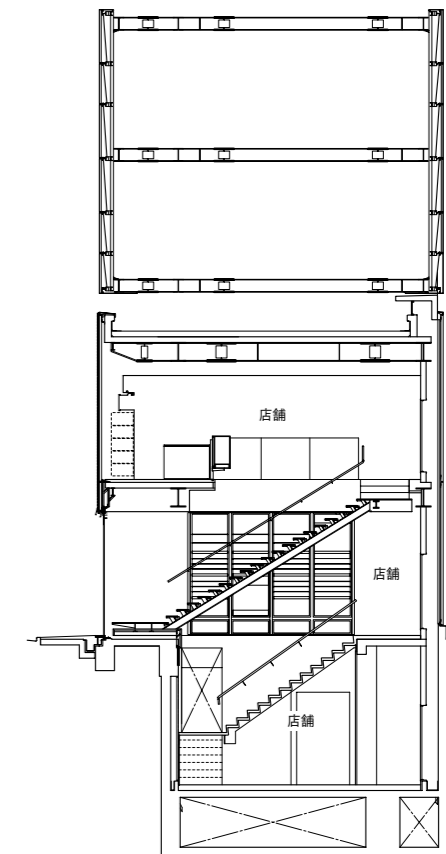
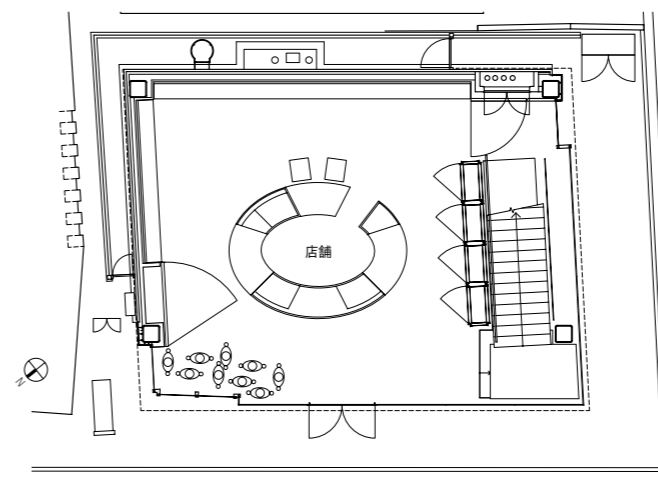
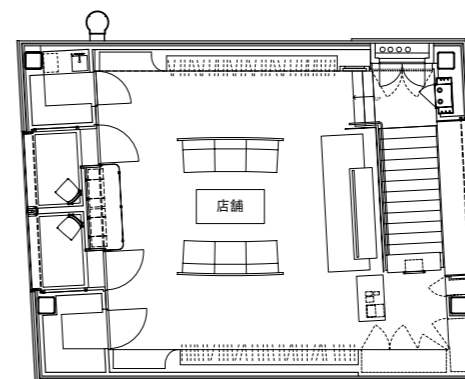
に向けることによって、より安全性能を高める工夫をしています。また、このステンレスバネ鋼によって、タイルの寸法精度のバラツキを上から押さえ込み、後ろから押し出すという結果になり、安全かつ安定した取り付けが確保できたと思います。「マークジェイコブス青山店」の前例のないユニークな外観は、INAXタイル開発チームの努力、各種試験による裏づけ、金物製作所の技術力、タイル工務会社の知恵と工夫、そして元請け施工会社の統括力と細やかな気配りなどによって実現できたものです。

もとはしまさひこ——タイル建材事業部 商品開発部 特機開発グループ

左——モックアップ | 右——タイルピース



タイル取付詳細図 1/5



建築概要

名称: マークジェイコブス青山店 | 所在地: 東京都港区南青山5-3-27 | 敷地面積: 162.74m² | 建築面積: 113.91m² | 延床面積: 271.11m² | 規模: 地下1階、地上2階 | 構造: S造、一部RC造 | 工期: 2009.11-2010.12 | 設計: ステファン・ジャクリッチ・アーキテクツ | 施工: 建築: 北野建設、内装: ディー・プレーン

● INAX使用商品

外壁 | タイル: プレイド特注品 HAL-15R / 195×15 / KBLD-PWSB